

# 写真によせて

## エゾノハナシノブ

*Polemonium caeruleum* subsp. *yezoense*

札幌市 梅沢 俊

ことの始まりは2021年6月19日のこと。札幌市の砥石山に花の撮影のために登った。この山は花の種類が多い上に、登山口まで我が家から車で10分余りなのでよく出かける。

前年の秋に確認していたサルメンエビネを写した後、林道を登った。この林道脇には帰化植物が少ないのだが、日当たりの良い場所でフランスギクが咲きだしていた。そしてその花に見慣れぬと言おうか、懐かしい蝶が吸蜜に訪れたのである。「あっ、シロオビじゃん！」何でこんな所に？

少し説明をしておこうか。私が目撃したのはシロオビヒメヒカゲという北海道特産のタテハチョウ科（旧ジャノメチョウ科）の蝶である。ユーラシア大陸北部に広く分布しているが、日本では北海道のみに分布が限られている。それは2つの亜種に分けられており、私が目撃したのは裏面の白帯模様の幅が広い北海道東部亜種だった。どうしてそれが砥石山に…。もう一方の白帯の狭い定山溪亜種の産地はほぼ豊平峡に限られ、高校生の時代によく採集や撮影に通った思い出がある。その頃は木材搬出用のトロッコ軌道が敷かれていた。懐かしいなあ。そして思い出した花がシロオビの産地に咲いていたエゾノハナシノブである。その花を初めて目にした時、清楚ながら何

と華やかなのだろうと感じたものである。「そうだ、その花と蝶を確認しに行こう」と数日後豊平峡に向かったのである。

入口の駐車場から歩き出して程なく、定山溪自然の村の脇にはそこから先は通行禁止との表示。その先に望む旧林道は草が生い茂ってかなり荒れている様子。ならこっそりと自己責任で行こうとしたら、ありゃ！自然の村職員に見つかってしまった。

で、花と蝶の確認はできずじまいだったので、仕方がない昔日撮影した花の写真を載せることにしたのである。背景の岩場にはモイワナズナやヤマハナソウも多く、楽しいロケーションではあった。この群生地、今はどうなっているのだろうか。

砥石山で撮ったシロオビヒメヒカゲの写真を昆虫に詳しい北海道博物館の堀繁久さんに送ったところ、「東部亜種が西に分布を広げて定山溪亜種との交雑が心配されている」とのことだった。

つまり“ああ昔は良かったなあ”と言うのがオチです。

## 道南の植物

### サンリンソウとオオイワカガミ

仙台市 国京 潤一

サンリンソウは長万部岳登山口で見えていましたが、もっと沢山咲いている所を見たいと思い、大千軒岳で見られるとの情報で向かいました。知内川沿い登山道を歩き、

広い河原で出会いました。沢山の花が咲いていましたが、残念ながら私の好きな変り花は有りませんでした。

今回大千軒岳の目的はサンリンソウでしたので、手前でオオイワカガミを見つけましたが、帰り掛けの撮影になりました。初めてオオイワカガミを見たのに、でもゆっくり花を堪能できました。2007年6月2日 撮影

## 道南の脇役

函館市 酒井 信

道南の植物は種類も多く、良く知られた目立つ花々も多いが、ここでは地味な植物も取り上げてみた。

オオカモメヅル 函館山 2017.7.27

函館山を歩いていると結構目につく。見かけるとカメラを向けるが、小さな花に不自然な姿勢で近づくため、体の揺れでほとんどピンボケ、この画像もそうである。

アカネ 函館山山麓 2019.9.12

今年(2021年)は函館の2ヶ所でオオアカネらしいものも確認、比較のため来年はアカネのチェックも忙しくなりそうである。

モクゲンジ 函館市 2021.8.24

これは地味とは言えないが例外として。倒木で根元を残し切断されたが、残った部分から多数の枝を立ち上げ、見事に再び咲きつつある。往時の姿には遠く及ばないがこんなにも早く、再度、見られるとは思っていなかった。

## カリバオウギ

江別市 嶋崎 太郎

有名な自生地は河川敷の砂礫地ですが、本来の生育地は崖地や岩礫地だと思います。2020年の秋、松前半島の崖地で偶然カリバオウギの群生地を見つけました。その時点では花も実も終わってしまっていたため、2021年の夏に再訪したところ通常の赤紫の花のほか、薄紫色の花をつけている個体も見られました。ただ、ロープに吊られてプルプルと震えながらの観察だったので、あまりしっかりと観察・撮影できなかったのが心残りです。

## 道南は奥深い

美唄市 新田 紀敏

写真の日付を見ると10年ほど前になります。足繁く道南に通っていた時期がありました。観察会も何回か参加して、エビネ、シュンランやツガルフジはその時撮影したものです。また、一人で歩くことも多く、ヒメホテイランなどは熊に怯えながら山奥へ入って探しました。オクシリエビネは観察会では花付きが今一つだったため、翌年1往復しかないフェリーの午前の便で島へ渡り、午後の便で帰るといってんぼ返りをした時のものです。大平山は何度か登りましたが、アプローチは林道歩きだったのが、ある年立派なトンネルが開通していてびっくりしました。最近も新しい植物が発見されるなど、どこまで行くのか道南は奥が見えません。

## 春は道南から？

札幌市 本多 丘人

なにしろ広い北海道です。道南の春の訪れは札幌よりも一月ほど早いので、待ちきれない人（私）は道南に向かいます。しかし渡島・檜山地方となると地元札幌からはかなりの距離があり気候条件も異なるため、春に限らず札幌あたりでは見られない植物がいろいろあります。現地に住んでいる方々にとっては珍しくなくても、行く度に（ほぼ）初物に出会えるということに。そして何度も道南に行きたくなるというわけです。

セタナキンポウゲ せたな町 2018.5.14

2019年に新種として発表されたばかりで植物図鑑などに未掲載のせいか、まだあまり認知されていないようです。青森県から長野県にかけてところどころにあるというツルキツネノボタンに似た植物とのこと。5月中旬ごろ、せたな町の自然公園の遊歩道をちょっと歩くと足元に鮮やかな黄色の花が必ず咲いています。そこ以外の産地は今のところ見つかっていません。本誌37号に小文が載っています。

ナガミノツルケマン 函館市 2015.9.22

この植物は北海道、本州、九州に分布する植物として知られていました。ところが北海道に産するものは本州・九州産のものとは花の形態その他が明らかに異なることがわかり、1991年に新種チドリケマン（分布は北海道の東部）として発表されました。

そしてその時から北海道に本種は分布しないことになりました。ある日、函館市の林道でこれ（ナガミ）に出会った時、直前に道東で見たチドリケマンとは何かが違う気がしました。その後、写真を添えてチドリケマンの発見者（発表者）に問い合わせたところ、ナガミノツルケマンに間違いないとの太鼓判でした。人為的移入種の可能性は否定できず、したがってすぐ消えてしまう可能性もあります。

ママコナ 函館市 2015.9.22

道内のママコナ属にはママコナ、ミヤマママコナ、エゾママコナの3つがあることはだいぶ前から知っていましたが、その中でママコナは見えていなかったのです。本会会員から教えていただき、函館市恵山で見ることができました。最盛期を過ぎていたのにちゃんと咲き残りがあったのはラッキーでした。

シハイスミレ 函館市 2014.5.7

本誌30号（2013年）の小特集はスミレでしたが、その段階では私にとって「まだ見ぬスミレ」のひとつでした。恵山付近にあるという話はあったものの、そう簡単に出会うことはありません。ところが2014年に春の道南巡りの際、別の場所で同行の本会会員が見つめました。恵山から10数km離れた林道の脇で咲いていました。ラッキーでした。葉の裏が紫色を帯びているのでシハイスミレ（紫背堇）なのですが、私の中ではシハイスミレとマキノスミレの違いがよく理解できていません。

キッコウハグマ 厚沢部町 2015.10.12

滅多に見られない花は気になるもので、厚沢部町の現地を訪れてたくさん自生しているのは確認していましたが、閉鎖花だけのことが多く、数回目の訪問でやっと開花状態にお目にかかることができました。よく見ると、5深裂した3つの筒状花がまとまってひとつの花を形成しています。道内では厚沢部町にしかないのかと思っていたら、知内町にもあることを教えていただき、そこでも開花を確認できました。

コアツモリソウ 厚沢部町 2010.6.6

アツモリソウ属の中では一番目立たない花かもしれません。その名のとおり全体的に小さく、しかも2枚の葉のそばからぶら下がるように花をつけるので、そのことを知らない人にはほぼ見つけられません。もっと目立つ方がポリネーターにとって見つけやすいと思うのですが、それなりの事情があるのでしょうね。

こと。なるほどなるほど。そして驚きました。想像していたものより小さい！ 仏炎苞4cm程とあるのでちょっと小振りの、おはぎのような大きさを思い描いていたのです。が、びっくり！ ペットボトルのフタ程の大きさしかありません。やはり一見にしかず、です。

その後、よく行く恵庭公園にて捜してみたところ、目が慣れていることもあり、そこここに、地面から出ているではありませんか。植物が密生しているところでは目に入りませんでした。林縁の草の疎らな所ではあちこちに見られ、何とか目的を果たすことができました。

## ヒメザゼンソウ (裏表紙)

札幌市 佐藤 ひろみ

身近な植物なのにまだ花を見ていなかった。何とか見ようとリストアップしていました。葉が多数ある場所に毎週のように通い、葉が枯れる様子、他の植物が入れ替わりに繁茂してくる様子など眺めていました。そんな折、タイミング良く美唄から開花情報が寄せられ、N氏のフィールドで見せていただけることになりました。葉が枯れると場所もわからなくなるので、周囲の植物を刈り払って見やすくしていたとの